

伺、趣特別、扶助料下賜相成候ニ付恩給令、扶助
料、下賜不相成儀ト可相心得事

明治十六年七月十二日 局

明治十六年六月廿五日

參事院議長山縣有朋

太政大臣三條實美殿

十六年七月二日井上外務卿金玉均ト
談話筆記摘要

一應挨拶畢

金 局 般ハ御懇書ヲ賜ハリ拜読セリ并添ニ使ミモ

時々面會致セリ此頃京城ヨリハ何ゾ申来ラズ候ヤ

卿 別段異状ナシ

金 生々夜貴國ハ渡航スルニ付テハ竹添公使ヨリ

申越所候ヤ

卿 貴下渡航ノ下ハ承居候

金 米公使着京後ハ敎國人モ満足ノ態ニテ

誠ニ如都合ニ候

卿 其節拙者ヨリ差上レノ旨存ニモ述べ如ク今夜

米國ニテ貴國ヲ獨リト認ムルに至リシハ實ニ貴

國ノ為ニ大慶スヘキナリ此事ニ付テハ拙者モ
過日朴泳孝氏ト談セシテモアリテ充分周旋
努力致セリ

閣下ノ取事ニ附テ尽力下サレシハ他ノ者ハ
知ラズ朴氏五ニ十年ハ充分承知シテ深ク感
銘致居候

年公使着京後ハ接待モ充分行届キニ
昔隨行ノ書記友ヨリ報ニ来リ届定ニ存
居候

全 一向、行届不申慙愧ノ至ニ茲諸テ朝鮮モ
今、場合ニテハ獨立國カ將ク屬國カト生ニモ
不相分程ノ勢ニテ閣下ニハ如何ニ考御成
サヤ

卿 夫レハ貴下自身ノ存國ノ事ニハ及テ貴下ニテ
御承知お成候事ナリ

全 ヤ生ハ自分ノ國ノ一テハアル氏及テ自ラ暗キハアリ
過日ノ貴府ニモ事ヲ急激ニセサル様ハ
指教アリタリ就テハ事ヲ指導セラズ
居候又ヤ生モ今度開拓使ノ職ヲ授ケ
南諸島ノ開拓ニ着手ス思考ニ致ス様
中相談シ請ケシ

卿 今貴下カ自分ニハ朝鮮ハ獨立カ屬國カハ
トイハレシハ何故ニ於此拙者ニハ一意合意カ
ス候

全 貴米兩國ニテハ已ニ對等ノ条約ヲ結バレシニ
獨立ノ態ニ於得者支那ヨリハ兵ヲ派シ置

キ属國、ト申居リ故、お分ト申
御：此

卿
此者局外ヨリ觀ルハ是迄永年ノ富強國
ハ支那ニ向テ殆ト属國ノ如ク凡ヲ取ラレシモ
今ヨリ七年前江華ノ事アルニ際シ稍、独
立ノ萌芽ヲ發シ米ト法約スルニ至テ又一層
獨立ノ傾向アリ然レ氏國ヨリニ百年以來ノ
關係モアルト故今一旦斷乎トシテ既ニ然
獨立ノ態ヲササント欲スルハ到底干戈ヲ
以テ支那トお争フニ至ルハ蓋シ避ク可ラザ
リテ故ニ對テ急激ニ走ラズ徐々トシテ以
傾向ニ連レ各國ヨリ進ミ獨立ノ助ヲ与ハニ棄
ジテ其低碎無瑕ノ獨立ヲモ謀ルヘシ今日ノ

金
慮ミラハ只今獨立ノ傾キアルトイフヲ可ナリ
急激ニラハ不可ナルトハ生ノミナラズ我政府ノ者

均ク承知改居ハミテ今直ニ支那ノ干渉ヲ
絶ツヲ得ヘシトハ考ヘ居ラス假令之ヲ欲スル
トモ行レ難キト故急激ニハ走ラサルトモ
獨立ノ傾キアルト申スハ中分リ、然レ成

卿
程日米兩國ハ獨立ト認メタレ支那ハ依然
トシテ旧見ヲ改メス是ハ二百年來ノ關係モア
ル其苦ノ事ト存ル

金
萬事急激ニ走ルベカラストノハ中分書ニ并
悉セリ決シテ考慮ヲ煩ハサル、一ナリ外國ヨリ
見ルハ或ハ我商望ニテ支那ヲ除カントスル
議臨アルニ似タルハアルモ知レ不申於得共是

ニハ種々浮々由縁アリテ一朝一夕ノ活ニテハ
尽シ難シ

師

拙者ハ貴國ニ居ラサルノ故委細ノ事ハ存じ不
申名併譬ヘバ朴泳翁氏ノ如キモ幸ニ顯位
ニ立テ好地歩ヲ占メナカク民意ニ洽ミサルヲ
為シ又尹雄烈氏ハ北部ニテ練兵ニ從事
セラル、ヨシ此等ハ何レモ支那ノ感觸ヲ惡シ
シ又對竟ノ因テ衆スルハトナルヘシ夫レト申ス
モ公府庶望ノ諸氏協議ヲ遂ケサルノ歎ス
トコト實ニ貴國庶望ニテハ權ノ賜スルハ不
ナク泛然トシテ一ノ政府タルヲ認ムルノ難シ
又支那ノ如キモ之レノ外國人ノ壓制ヲ
受ケ居リシカ決シテ甘心服従スルハ非ラサル

ヘシ然レモ國ノ命脉ハ人物ノ一生ト異ナリ
故ニ徐トシテ之ヲ恢復シ國ハナラン貴國
トテモ支那ト數百年儀式上ノ往來アリシ
故矢張徐トシテ然タル獨立ノ俾ヲ謀ルニ
非サルハ能ハサルナリ且又邦國ノ交際ハ極
テ微眇ニシテ恰モ電線ノ如シ此方ニテ此方
ノ差違アルハ片ハ直ニ他ノ感觸ニ關係ヲ生ス
者ニ致

全

ヤ生ハ急ニ支那ノ干渉ヲ除クヘシトハ思存不申
或ハ他人ヨリ竹添公使ニ向テヤ生ガハ持論アリ
ト申ス者アルヤ雖計片決シテ左様ニ致ハス
朝鮮ニテハ只今ノ情形ニテハ政府ノ大權ハ
我主上ノ掌握スル不シテ主上モ先ツ支那ノ

干渉ヲ父ケラモ忍テカサントノ主義ニ於テハ
諸臣モ皆之ヲ遵奉スルニ居リ又朴氏
ニテ過日ハ僑ノ小屋ヲ取除クヘシト命令シ
下セシガ此ハ年々例アルナレバ反對党ヨリ
此事ヲ名トシテ其權ヲ殺シ其位ヲ退カレン
ント圖リタルナリヤ生モ先般海國セシヨ日
本党ナル者アリテ朴氏及ヒヤ生其外猶數
名其内ニ在リ因テ頗ル奇怪ノト存ジユテ
支那党ニ入ラントスルハ從党中ノ人之ヲ肯セ
ズ而シテ日本党ハ支那党ヲ退ケテ独リ日本
ニ倚テ事ヲ成サントスル者ナリト依得セラル
隨分奇難ノ事モアレバ主上ハ漸ク独立シ
主張セラル、思食ニテ其辺ノ一モ能ク而分相

成居リ遂ニ奇難ヲ免ル、一ヲ得タリ朴氏ノ
辭職モ主上ハ好ミセラルザルハ若シ之ヲ聞
届ケラサルハ却テ反對党ノ刺戟ヲ受ク
ヲ以テ其意ニ從カレタリ

卿

竹添其他ノ報告モ亦貴下ガ金ヲ支那ヲ除ク
持議アリトモ聞カズ然レバ朴氏ニセヨ而外ハ
隨分爲スヘキノ一モアラシ、間接ニ支那ヲシテ
感觸ヲ惡クセシメ反對党ニ乗ゼラル、様ノ
一ヲスルハ玉極不面白ナリ又貴下ハモレニ
ドウハ氏ト合ハサル由ナレバ該氏ハ貴下ノ事ヲ
称讃シ居リ又該氏ハ目下對シ日本ハ
傲ハサルヲ得サルトイフ一モ知リ居リ又支那
ヲ親分ト主テ、事ヲ爲シ隨分對シハ

サルナレト云フモ申居リ彼ハ公平ノ人ト
見受ケタリ抑席重上ニ立テ議論ノ行ヒヌ
アルハ彼ハ曰断ニシテ恰モ航海ノ如ク風順
ナレバ進ミ送ナレバ退カサルヲ得ズ此レ人事ノ避
クベカラサル者ニシテ改方ナレ即チ貴下ガ今後
開拓使ニ任ゼラレトノモ拙者ハ決シテ望ム
テ能ハス貴下ハ何故ニ中央政府ニ立テ國ヲ
ニ力セラレサルヤ議論少シク合ハサルトテ
不平ヲ起サル様ニテハ何ヲ以テ國難ナリ
鮮國ヲ治理スルヲ得ヤ

金

モレンドハ氏ノ事非添公使ヨリモヤ生シ方
能ク其人トナリテ承知取居ルハ彼ニ欺
カレサル様ハ成者ヤ非添公使、注意セリ

彼レハ隠分利ノ人ナレ氏ヤ生ハ親シクスル
ヲ能ハサル不以アリ彼ガ朝鮮ニテ高官ト
ナリタルハ金ク支那ノ市蔭ニシテヤ生ノ能ク彼
レノ心事ヲ承知取居ルハテ彼ハ往
來言ノ如キヲナセリ

卿

夫レハ金ク貴下ノ疑惑ナラン曰氏ハ固ヨリ李
鴻章ノ紹介ニ因テ國王ヨリ聘セラル、不
人エハ拙者モ最初ハ同氏ノ行為上日韓
ノ事ヨリ寧ロ支那ノ利ヲ謀ルモ敢テ怪
シムニ足ラサルト思考セシガ尔来同氏ハ公
平ノ道ヲ履ミ能ク朝鮮ノ為ノヲ謀ルアルハ
見ルニ足ル者アリ凡テ人事ハ自分一己ノ思
想ヲ以テ他人ノ思想ヲ罪スベカラサル者ナリ

卿

貴下ノ今日氏ヲ以テ朝鮮ノ為ニ不利ノ
人トセラルハ何故ナリヤ恐クハ矢張り貴下
己ノ執念ノ存シ彼ノ思想ヲ罪スルモノナラン
其事ハ外添公使ヨリモ尋々更ケタレバ深キ故
アリ御話スルハ出来得る同公使ノ對エ置
キタリ金侍モレンドル氏ハ朝鮮人ニ對シテハ
將來独立ヲ謀ルハ小キ日本ノニ倚ルトモ仕
方ナシ何レ露英独等ノ如キ國ニ倚ラサルヲ
得ズトイヒ又アストンフリト等凡テ他國人ニ向
テハ又何カ程能キ話ヲ為シ及覆表裏ノ
慙アリ且同人ノ心底ハ独リテ全國ノ權ヲ
握リ度積リナリ

金權ナリテハ事ヲ處スルハ能ハサルハ勿論ナリ杜

者モ今日外船卿ノ職ニ立リテ皇帝陛下
ノ命ヲ奉ゼシメハ太政大臣ヲ之ヲ不議
スルモ遵ヨセサルハモアルヘシ凡テ内外人ニ拘
ハラズ既ニ其事ヲ擔任セシ上ハ左ナクテハナ
ラズ事ナリ然シナカラ居シモレンドル氏ニシ
テ國王ノ權ヲ奪フトノハ則チ叛人ト謂
ハサルヲ得ズ

金

生ノ彼ノヲ申ストテ別段彼ノ權力ヲ
妬ムニ非ラス然レ彼ハ自己ノ主意ヲ立テ通
スル能ハサルヨリ人ヲ離間セントスルハ實ニ可
惡ナリ

卿

拙者同氏ニ面晤セシメトシ同氏ヲ徹底ス
ルニ非サレバ既述ノ事ニ就テ証スルハ馬建

常ニテモ能ハズ他ノ人ニテモ能ハサルヲモモレニ
ドルフ氏ニ話セバ出来ルアリ是ハ如何ニ消
ナルヤ

全 夫レハ彼ニ權アルニテ他ノ權人ニテモ必ス
能ク事ヲ成シ得ルトイフ理モ通ルヘシ

師 曰氏ハ支那ノ貿易章程中ニ害見テ能
ク承知及居リ且曰氏ノ話スル其外添
ニ對シテモ李鴻章ニ對シテモ異ナルヲキヲ
知レリ因テ弗添ノ如キモ何事モ始メ曰氏
依テ相談スルヨシ他公使モ亦然ラニ原未
貴國人ハ非常ニ新惑多キ故夫等ノ
ヲ見テ種トト新ヲ起スナラニ我國ノ如キモ
昨年ノ事変おハ貴國ヨリ百方新ヲ文居

全

レリ

卿

成程疑モ我分カアルベケレト曰氏ハ能ク事
ヲ成スルモアラナガ又曰氏ノタノ害ヲ文ル
モアリ故ニ彼ニ全權ヲ任スルハ出来難シ
人若シ新ヲ抱ク中ハ何等ノ真實ナル人ヲ
見テモ新ハリルヲ得ズ然レ先ツ疑テ後ニ信
スルトイフハ誠ニ宜カラヌナリ貴下ト朴氏
トハ事理ニ明カトル人ハ非ズヤ而シテ尚ホ
新ヲ抱ク中ハ其他ヲ若何セン又假令モ一
ドルフ氏ヲシテ真ニ貴國ノ為ニ利アラサル者トモ
ハ貴下又之ヲ如何スヘキヤ朴氏ノ如キモ人ノ
嫌ヲ受ケ中央政府ヲ去リ貴下モ西南開拓
使トナリテ島ノ開拓ニ從事スルナド何ノ鴻益

カ之レアラシ抑モ昨年朴寅翁氏ノ来タラハヤ
肉氏ハ果シニ之シキ人ト見タケレユヘ独立ノ
精神ヲ附ハタノ強ク説キシガ今更下ハ
拙者ノ以テ論ヲ聞キ或ハ井上ハ前日ノ議論ト
一変セシト思ハルナラン然レ独立ノト口頭ニ
テハ言ヒ易キナレ其中心ニ多少ノ方畧ヲ
要スルコトヘ今急ニ支那ヲシテ属國論ヲ止ソ
シメントシテモ行ハサハナリ假令ヒ日本一國
ニテ独立ト認メタリトモ支那ヨリ比スバ小國ニテモ
アリ而シテ其效ナシ故ニ米國ヲ引入レ而他ノ
獨英等ノ國モ引入レテ詰リ支那自身ヨリ朝
鮮ヲ認メテ独立ト為サハルヲ得ザル勢ニ至
ラシメントスルナリ然ルニ外國人ト詰約スルハハ

易ノ利ヲ以テスルヨリ外他ニ道ナシ故ニ過日
アストン氏ノ演韓ノ時モ書ヲ貴下ニ寄セテ
咸又税ヲ安クスル様ニト勸告セリ

金
閣下お後ノ御話悉ク明瞭ナリ咸程モ一ニ
ドル氏ハオモアリテ我國ノ為メニ尽スルモアラシ
カ其多少害心ヲ抱クコトモ生ハ承知致居リ
然レ氏之ヲ言フハ我國ノ恥ナレバ生ラ言フ
ヲ欲セズ

是ヨリ端ヲ更メ

金
生モ開拓使ノ友然ハ奉ル氏中央政府ニテ
統領衙門ノ列ニモ居リ財政ノ一部ヲ擔當シ
タレ居ル何ヲ申モ國帑缺乏ニ付外
債ヲ募ルハ一ニ内債一定ニ貴國ニ返航セシナリ

尚種、御高議ヲ乞ハタシ

卿 金ハ何ノ用ナルヤ

金 目下我國ニテ銀貨并ニ常平兩宝ノ一ケニテ
五文ニ当ルモノヲ鑄造、改居ル所共是位ニテハ
何分用エル処ヲ思サズ故ニ外債ヲ起シテ無備
礦山等ニ從事、度々命令ヲ奉シテ未航セリ
卿 外債ハ何レノ國ニテ起サルハヤ

金 貴國ニテ暮リタシ故ニ貴國ニ渡航セリ

卿 我國人民ニテ借ス者アレバ拙者ハ異論ナシ

金 尤モ別段懇意ノ人ナキコトハ所詮出鼻難

卿 何レ閣下ノ御尽力ヲ頼ニ度カ

金 何程カヤ

卿 云る所同程暮リ度カ

卿 以前ニ御借入証成シ時ニ拙者ハ保証セズ

金 今回モ貴國政府ノ大丈夫ナルヲ保証シテ

人民ヲシテ募ニ應ビシムコトハ出来難シ

金 おし十七萬圓ノ時ニ種々閣下ノ御斡旋ニテ

惣テ今日我國ニテ最も大關係アルモノハ財

政ノ一條ニシテ之ヲ遂ゲスニハ何事モ着目ス

ルノ能ハス故ニ是州トモ外債ヲ募ラサルヲ

得サル場合ニ付命令ヲ奉シテ渡航及

拙者ハ今日外務省ノ地位ニ在リ其儀ハ御断

リ申度おし十七萬圓モ何ノ用ニ立チカ分

ス練兵開拓開礦等成程要路ニハ

得共貴下等ハ金ヲ用フルコトハ御承知ニテ

其切ヲ収ハ前途ノ一ニ至テハ何モ御分ナシ

金 一言モ多し然し夫ノ十七萬圓ハ五萬圓ハ
賑恤銀ニ充テ其餘ニテ器械等モ買入レ
タリナレモ原本未だ敷ノコエ格別ノ利益ヲ
収ムルハ出来難クモ今度ハ外債ヲ著リ
得レバ開礦等ノコモ外國人ヲ聘シテ實際
着手スル所ナリ

卿 支那ヨリ借入レラレシ金ハ如何ニ成シヤ
金 支那ヨリハ関氏二十萬兩ヲ借り更ニ他
関ノ入用ニ充ツルコト貯蓄ナリ

卿 前ノ十七萬圓ハ何カ正金銀行ニ残リタルモ
亦取返セリ又人々詐リ取ラレシモ承取返セリ
随分莫下ハ不始末ノ人ナリ而シテ實地朝
鮮ノ為ニ謀ルト思フ人ハ狐疑ヲ定ケ又折角

要路ノ地位ヲ占メタリト思ヘバ勿クニシテ其職
ヲ辭スルコトナリ 朝政更實ニ貴政府
全權ノ在ルハ知ルニ由ナリ 時々信ヲ置クニ由
ナシ故ニ此ニ百萬圓モ拙者証人トナリテ著ル
コトハ出来難シ

金 十七萬圓ノ餘モ尙或萬圓アリテ器械モ買ヒ
生計モ派シタリ成程金ノ支用方ニ付局外
カラハ中分リ被成兼ルハモアラセガハ度ノミ
萬圓モ朝鮮ノ為ノヲ思ヒ我主上ヲ仰信
以成候事ニ於テハ中堅力被下度ナリ
貴國主上ハ是迄拜謁セシモノナク亦固ヨリ
親近ヲ忝フセシモノナク御信用ノ申上様ト
モ無シ只此方ヨリ信用ヲ置クト否トハ貴政

府ノ固否如何ヲ見ルヨリ外ナシ貴國ニテハ
支那ヨリ借入ル金ハ支那元ノミ之ヲ用ル
トイフヲモ承リ居リ左様ノ都合ニテハ連モ
信用ハ置キ難シ且ツ貴下ハ經濟ノ弱ヲ亦
承知セラレザルベケレ氏今日之る万田ノ金ハ通
常ノ利子一割付トシテ十年後ニ至ルハ倍數
ニ上ルヘシ又仮令此金ニテ直チニ開拓開鑛ニ
着目セシトモ今日開キテ翌日ヨリ利ヲ収ムト
イフヲナシ如ク勢ニテハ後日ヨリ軍艦ニテ貴
國ニ向ヒ賠償ヲ要求スルガ如キ結果ナキヲ
保チ難シ故ニ拙者ニ於テハ保証シ難シ
我政府ノ望ニ年ナラサルニ付閣下ハ保証セムト
ナリ然レバ既ニ貴國ニテ出来サルモ至ヘ米英ニ

おソレトテモ同断ナルベシ然レ金ヲ借ルハ抵
当利子ヲ要スルハ普通ノ理ニテ固ヨリ其切
ノ見込モ至キ居テ事ニ付閣下ニテ我國ヲ
亦捨不置下ニ親切ニ致シバ何卒以金ヲ
亦募リ得下成ヌ

卿 金ヲ借サヌトテ親切ナシトナハルカ實ニ其
意ヲ解シ難シ拙者ハ只ノ前途ノ一ヲ思フ
ヲ申セシナリ

金 急務ニ候故御預取度致
先キノ憂ハ如何ナサルヤ開拓開鑛ニ着目シ
テ將來成何ノ利ヲ収ムトイフ精細ノ計算
至キ居リシヤ

金 夫等ハ事ヲ計算ス居ラス然レ今其償還ノ

道ヲ御話可申

卿 償却ハ如何ナサルヤ

金 何ハ抵当ト云フヤ

卿 抵当ハ何品ニ於テ

金 税関ニテモ 鑛山ニテモ 金主ノ需メニ応スヘシ

卿 税関ヨリ或何ノ収入アルヤ

金 税関ハ未ダノエヘナリ難シ 鑛山ニテモ宜シ

卿 鑛山ヨリ或何ノ採レ高アルヤ

金 金主ヨリ實地ヲ駁則スル方ニ然ルヤ

卿 是ト政府ハ鑛山ヨリ或何程取立タルヤ

金 是止步着自セサルエヘ年々ノ収額ハナリ難

ケ氏駁測ノ上見ユラキテ金ヲ借入レテ着手

反度考ナリ

何ハ鬼モソレ政府ノ昭和ヲ第一トス即チ財政

ノ一モ一方ヨリ能クスレバ一方ヨリ損スル姿ニテ

不恰昭和一段ヲ遂ケサレハ基礎ヲ固クスル

能ハズ且ツ外債ヲ起シテモ今日ノ豫算ハ

後日ニ至リ必ス西算ヲ生スルモノニシテ我國

ニ於テモ其例アリ又其抵当ニハ 鑛山ヲ以テ

スルト言ハルモ其 鑛山ガ果シテ十分開採

ノ見ユアルモノナレバ 唐景星ガ一見シテ直チニ

招商局ノ金ヲモ出シテ着手センニ 左モナキ

不ヲ見ルト左程利益ト認メサルナリ然レハ

我ガ金主ヲシテ見サレムモ矢張同一轍ニ出

ノミ又税関トテモ役人ノ給金及其他ノ諸

費ヲ引去レバ大抵出入餘計ノ差ナカラン

故ニ之ヲ抵当トスルモ六ヶ敷ナリ莫下ハ只タ
現今困難ノ一ノミ被申取得共拙者後日ノ
困難ノ起ルヲアラシムヲ恐ル拙者トテモ外ニ
随分忤能ク断ル道モアレハ是迄ノ交際モ
アレハ斯ク直言取セリ為申考ナサルヘシ
金 帰後再考スヘシ然シ他日我政府モ完
全ナル場合ニ至ルハ別段國債ヲ起スニモ
及ハス今日ナレバコソ御願成度ナリ閣下
モ為申考置被下度ナリ
卿 考スル成取得共申モ當第回ノ話合ハ出月
難シ

金 只今ノ様ニ被度以度ニテ十方ニ方ト借入
テハ諸リ抵当ニモ困ルユヘ今度申被下シ被

得共引受被下サレハ朝鮮ヲ申見捨ナサル
ト外思ハレズ

卿 左様ニ申思ハ成バトテ拙者ニ於テ取方ナシ
何ヲ申スニモ諸リ今日ノ如キ貴政府不慣和
ノ好様ニテハ不慣信ヲ措キ難シ

右ニテ畢ル

井上外務卿
金玉均對話筆記摘要

吾人回覽此也

十六年七月十日

太政大臣

左大臣

大藏大臣

山縣大臣

西郷大臣

山田大臣

大村大臣

川村大臣

海軍大臣

長入目録也

十六年七月十日

太政大臣

左大臣殿

右大臣殿

山縣卿殿

西郷卿殿

山田卿殿

大村卿殿

川村卿殿

福澤卿殿

伊藤卿殿

送第 五 号

陸軍省朝鮮事件費検査ノ儀ニ付伺

陸軍省朝鮮事件費検査ノ際朝鮮國內本邦人民居留地
於テ購買セシ物品代價領收証書ニ印紙貼用無之何數
通發覺致候從來該省於テハ前記ノ如キ領收証書ニハ
必ラス印紙貼用セシメ來候處古無印紙証書ナルニ
ハ客歲該地騷擾ノ際購買ニ係ル物品代價領收証書ニ
テ本人印紙無所持ノ故ヲ以テ無印紙ノ儘取置候趣ニ
有之候然ルニ右印紙貼用ノ制規ノ如何ニ就テハ過般
該省ヨリ大藏省ヘ照會ノ次第ニ有之候由ニ付爾後其
回答ノ如何ニ探リ該費検査完了致度所存ニ有之候處
今日ニ至ルマテ何等ノ回答モ無之為ニ朝鮮事件費
決算検査完了ノ期益遷延シ不都合ト存候惟ニ良ニ
甲 六 八